

日本映画大学学生満足度調査結果【2021年度】

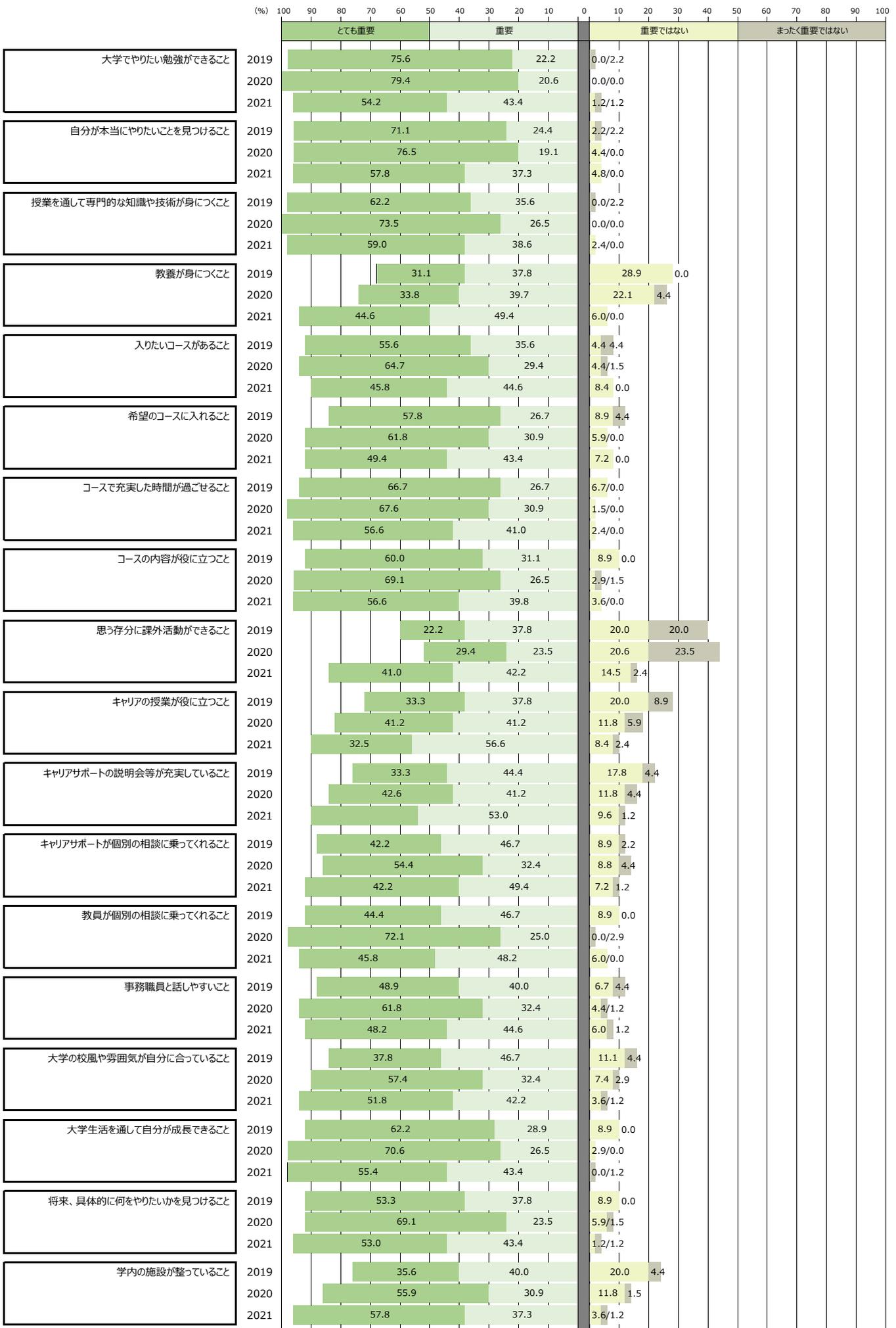
日本映画大学では、毎年3月に卒業する4年次生を対象に、4年間の学生生活を振り返った調査を実施しています。ここでは、過去2年度分の結果を掲載することで、経年での変化を確認することができるようにしています。

【調査概要】	調査実施日	2022年3月18日（卒業式・学位記授与式当日）
	対象者	4年次卒業生
	対象者数	86名
	回答者数	83名（回答率96.5%）
	回答方法	調査票による回答

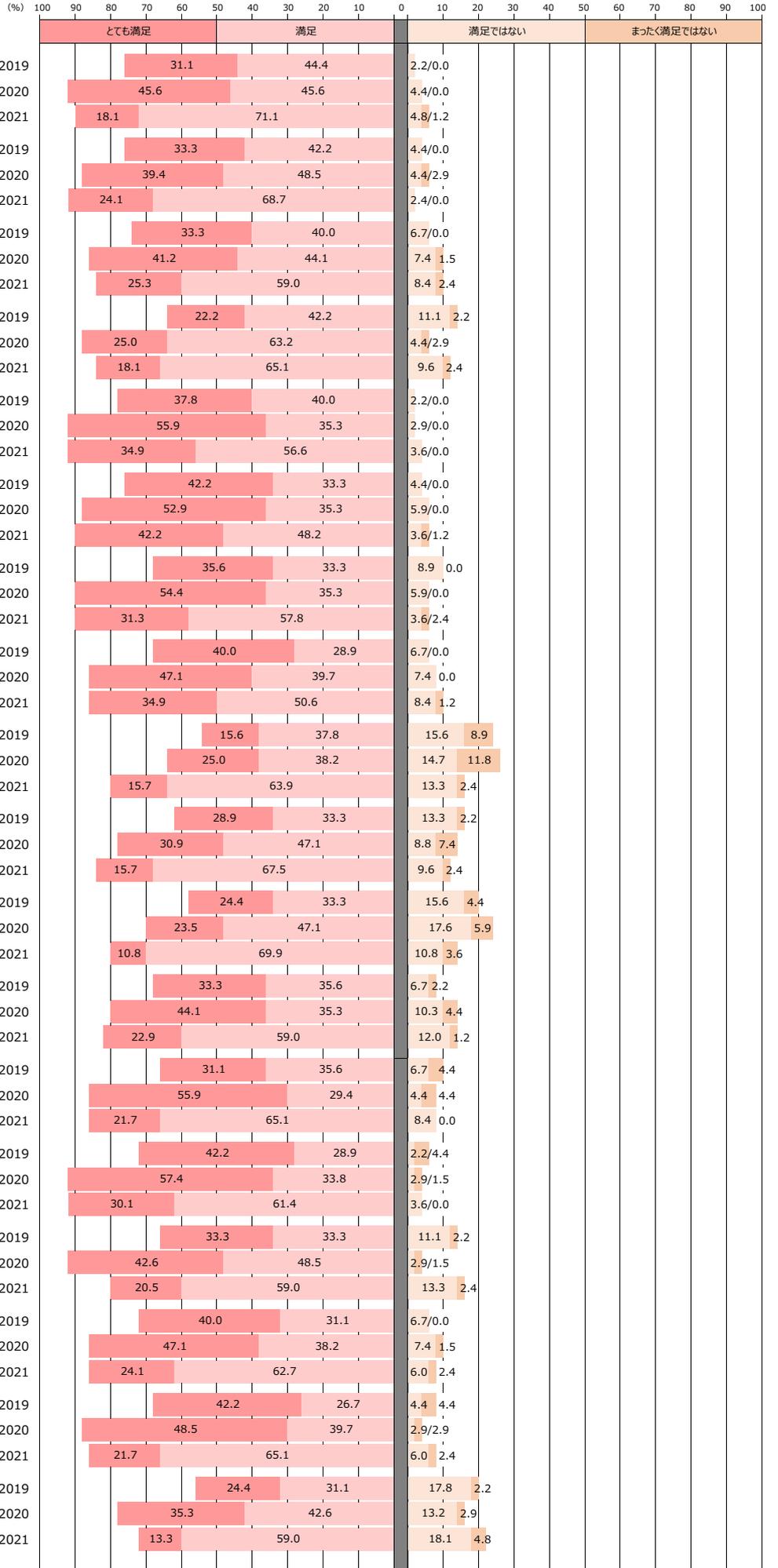
- 本調査は、毎年卒業式当日に実施しています。出席者のほぼ全員が質問票を提出しているため、高い回答率となっています。
- 「思う存分に課外活動ができる」では、前年（2020年）と比べて重要度・満足度ともに好意的な割合が増えています。本学での課外活動の中心を占めているのは自主制作による映画作りですが、課外活動が学生にとって重要な学生生活の一部であることがうかがえます。
- 「授業を通して専門的な知識が身につく」「教養が身につく」では、重要度に対して満足度の割合が低くなっています。本学はコロナ禍にあってもほぼすべての科目で対面での授業を継続しました。しかし、大幅な授業計画の変更を強いられ、入学時にイメージしていた知識や技術の修得が思うように得られなかったことが低い満足度として現れたともいえるでしょう。なお、講義主体の授業科目においても遠隔授業をほとんど行いませんでしたので、対面か遠隔かの授業方法の違いによる影響はありません。
- 「キャリアの授業が役に立つ」「キャリアサポートの説明会等が充実している」について、重要度・満足度ともに好意的な割合が年々増加傾向にあるのは、企業の採用活動が新型コロナウイルスを境に劇的に変化するなか、就職への漠然とした不安や就職活動の早期化に対するキャリアサポートセンターによる支援の裏付けの結果といえるでしょう。
- より専門的な映画制作の技術を修得する3・4年次に新型コロナウイルスの影響を受けたにもかかわらず、「自分が本当にやりたいことを見つける」の満足度が9割を超えています。ディプロマ・ポリシーの達成のためには対面での授業継続が不可欠と考え、授業計画を大幅に変更しての授業実施となりましたが、結果として卒業後の進路決定に結びついた学生が多かったことが高い満足度に表れているものと思われます。
- 「大学の校風や雰囲気自分が合っている」について、満足度が前年度と比べて1割以上減少しています。特に「とても満足」と回答した学生の割合が大幅に減少していることは検証が必要です。
- 「学内の施設が整っている」の満足度が7割程度であることは、学生が最新の機材や施設・設備を求めている結果といえるでしょう。最も要望が高いものとして学食の設置がありますが、コストや利用者数、設置場所の確保等から難しい状況です。
- 「悩み事の解決」では、カウンセラーに相談する割合が低くなっています。悩みを抱えていてもなかなか学生相談室に足を運ばない学生にどのように活用してもらえるかが今後の課題です。
- 「学外のような活動に熱心に取り組む」が毎年6割程度となっています。映画制作を中心とした実習主体の授業が多いため授業に忙しく、また空いた時間をアルバイトにあてている学生も多く、学外の活動にまで時間を費やす余裕がないようです。
- 「総合満足度」では、8割近い学生が「たいへん満足」「満足」と回答しています。しかし、例年と比べて「たいへん満足」と回答した学生の割合が大幅に減少しています。コロナ禍によるものなのか、推移を見守る必要がありそうです。



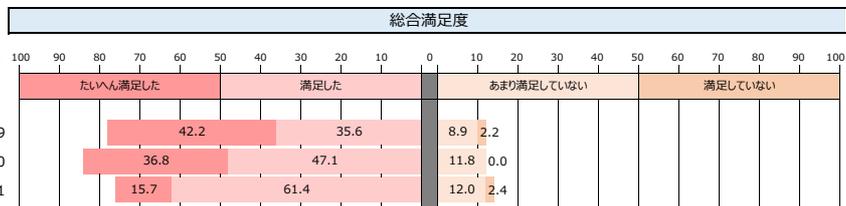
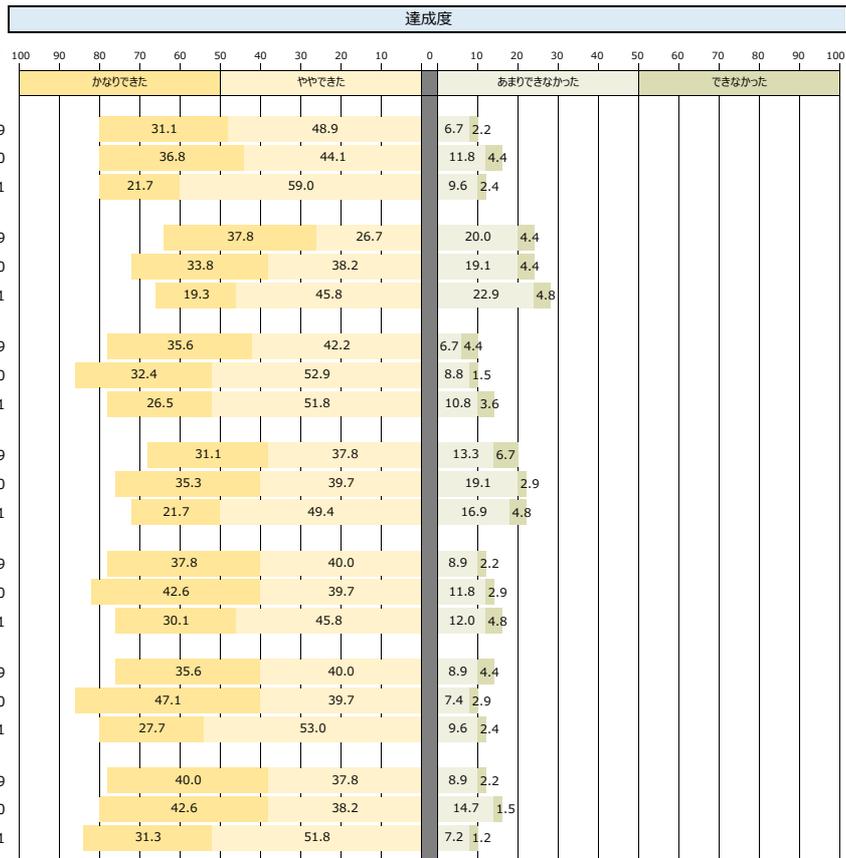
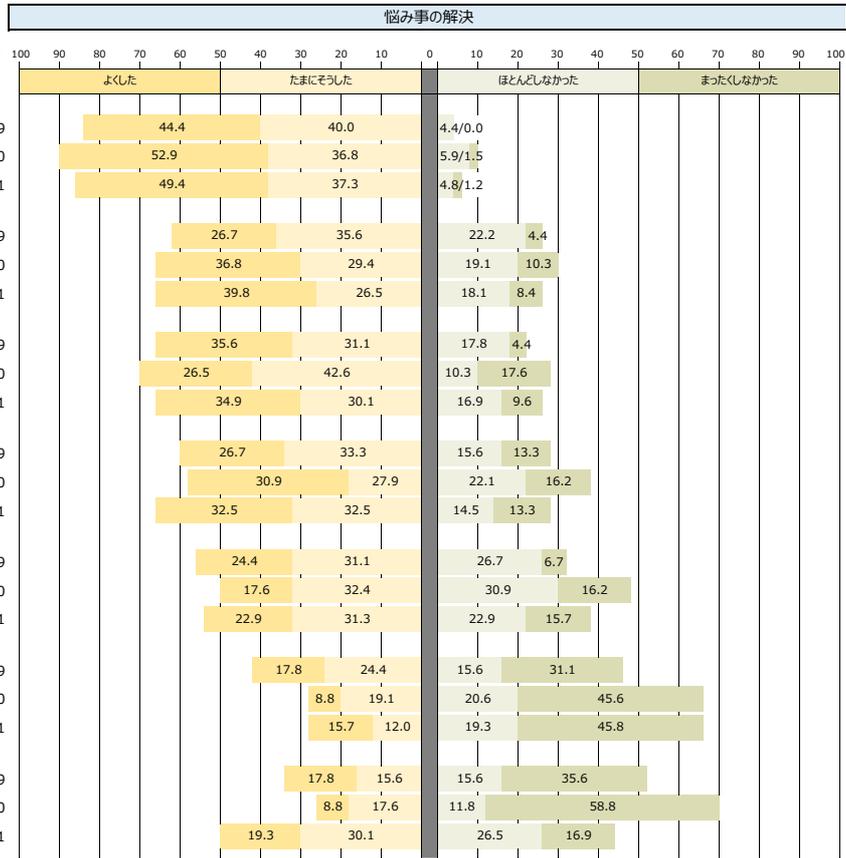
重要度



満足度



※ 無回答は除いているため、数値を合計しても100にはならない。



※ 無回答は除いているため、数値を合計しても100にはならない。